

徳島県からのラクダハコフグの記録

井藤大樹¹

Author & Article Info

¹ 徳島県立博物館（徳島市）
qqx36bd@gmail.comReceived 08 August 2025
Revised 13 August 2025
Accepted 13 August 2025
Published 13 August 2025
DOI 10.34583/ichthy.58.0_22Taiki Ito. 2025. First record of *Tetrosomus gibbosus* (Teleostei: Ostraciidae) from Tokushima Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 58: 22–25.

Abstract

A single specimen (149.8 mm standard length) of *Tetrosomus gibbosus* (Linnaeus, 1758) collected from Tokushima Prefecture, Shikoku Island, Japan represents the first record of the species from the prefecture. The specimen is characterized by a bony carapace composed of polygonal plates, with middorsal and inferior ridges; carapace triangular in cross-section; a strongly elevated dorsal ridge containing a single compressed spine at apex; a ridge over eye with a small spine; 9 dorsal fin rays; 9 anal fin rays; 10 pectoral fin rays. To date, only four specimens of this species have been recorded from Japan: one from Miyazaki Prefecture, two from Kagoshima Prefecture, and the presently reported specimen from Tokushima Prefecture.

ラクダハコフグ *Tetrosomus gibbosus* (Linnaeus, 1758) は、標準体長 15 cm ほどのハコフグ科 Ostraciidae に属する魚類で（松浦, 1984；林・萩原, 2013）、日本、台湾および中国南部から、紅海を含むインド・西太平洋の水深 1–20 m のアマモ類や海藻類が繁茂する砂地に生息する（松浦, 1984; Randall, 2005；林・萩原, 2013; Wu and Zhong, 2021; Allen and Erdmann, 2024）。本種は、体が硬い甲板に覆われ、その横断面は三角形を呈すること、鋭い 1 棘が背隆起の中央にあること、眼上棘が 1 本であることなどにより同属他種より識別される（松浦, 1984；林・萩原, 2013）。

日本国内において、ラクダハコフグは、神奈川県（Jordan et al., 1913）、新潟県（本間, 1952）、富山県（河野ほか, 2014）、愛媛県（大植ほか, 1953；辻・平松, 1987）、山口県（林・萩原, 2013）、宮崎県（三木ほか, 2017）、鹿児島県（本村, 2018）、沖縄県（岡田・伊佐, 1959）から記録

がある。2024 年 12 月に徳島県阿南市椿泊町沿岸にて、1 個体のラクダハコフグが採集された。当該標本は、徳島県からの本種の初記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

ホルマリン水溶液にて標本の固定を行ない、固定後にアルコール水溶液にて保存した標本を計数・計測した。標本の計数・計測方法については、Hubbs and Lagler (2004) と三木ほか（2017）に従った。魚体の左側を対象として計数・計測し、デジタルノギスにて 0.1 mm 単位まで計測した。標準体長（standard length）については SL と表記した。本研究に用いた標本は、徳島県立博物館所蔵魚類標本（TKPM-P）として登録されている。

Tetrosomus gibbosus (Linnaeus, 1758)

ラクダハコフグ

(Fig. 1; Table 1)

標本 TKPM-P 27472, 1 個体, 149.8 mm SL, 徳島県阿南市椿泊町, 椿泊町沿岸, 2024 年 12 月 8 日, 定置網。

記載 体各部の計数・計測値を Table 1 に示した。体は側面からみると前後にやや長い菱形で、体の横断面は三角形を呈する。頭部および軀幹部の腹面は平坦で、尾柄部はやや側扁した円筒形を呈する。口唇、眼、尾柄部、各鰭を除き、体は六角形の鱗が癒合して形成された甲板に覆われ、鱗の表面には微小な顆粒状隆起が密在する。体背縁は吻端から上唇にかけて前方にゆるやかに張り出し、上唇基部直後の甲板が前方に突出し、その後、眼上にかけて上昇する。眼上から背隆起の中央にある棘の基部までゆるやかに上昇し、背隆起中央の 1 棘を経て、背鰭起部から尾鰭基部までゆるやかに下降する。体腹縁は下顎先端から尾鰭基部までゆるやかに張り出す弧状となる。背隆起は高く、中央には鋭く大きな 1 棘がある。背隆起は頭部やや後方から始まり、背鰭起部直前まで達し、胸鰭後端の垂線上のやや後方でもっとも高く、その後、背鰭起部直前までキール状となる。眼は頭部側面の上方に位置する。眼の直上にはや



Fig. 1. Fresh specimen of *Tetrosomus gibbosus* from Tokushima Prefecture, Shikoku Island, Japan (TKPM-P 27472, 149.8 mm SL).

や後方に湾曲した小さな眼上棘が左右 1 対ある。眼上棘の直後より背鰭基部後端のやや下方まで低い背側隆起が縦走する。鰓孔は短く、上端が下端の垂線上よりもやや後方に位置する。鰓孔の下端は胸鰭基部の直前に位置する。腹側隆起は高く、鰓孔の垂線上のやや前方を起点とし、尾柄中央のやや前方で左右の隆起がつながる。腹側隆起には鋭く短い 4 棘がそれぞれ左右 1 対ある。口は小さく、垂頭位で、上顎後端は眼の前端よりもはるかに前方である。背鰭上縁と臀鰭下縁、尾鰭後縁は丸い（観察標本の尾鰭下葉は一部欠損する）。腹鰭をもたない。背鰭基部後端は臀鰭起部の垂線上よりも前方に位置する。肛門は臀鰭起部の直前に位置する。

体色 頭部と軀幹部の側面および背面の地色は黄色がかった茶色で、頭部と軀幹部の腹面および尾柄部の地色はわずかに黄色がかった乳白色である。眼の直下から頭部側面下部にかけて眼径と同程度の幅の濃い茶色の横帯をもつ。鰓孔の周囲と胸鰭基底から腹側隆起の第 1 棘の基部にかけて濃い茶色となる。腹側隆起の第 2 棘と 3 棘の間に 1 本、第 4 棘の基部に 1 本、臀鰭基部に 1 本の濃い茶色の幅の広い斜体をもつ。尾柄部の背面から側面中央にかけて濃い茶色の斑紋をもつ。背隆起中央の 1 棘は先端が乳白色で、その下部が濃い茶色となり、基部に向かうにつれて黄色がかった茶色となる。眼上棘と腹側隆起の 4 棘は乳白色。背鰭基底は濃い茶色。胸鰭は白色半透明。背鰭と臀鰭、尾鰭はやや黄色がかった白色半透明で、尾鰭の後端付近はわずかに黒色を呈する。

分布 日本国内では、神奈川県 (Jordan et al., 1913)、新潟県 (本間, 1952)、富山県 (河野ほか, 2014)、徳島県 (本

研究)、愛媛県 (大植ほか, 1953; 辻・平松, 1987)、山口県 (林・萩原, 2013)、宮崎県 (三木ほか, 2017)、鹿児島県 (本村, 2018)、沖縄県 (岡田・伊佐, 1959) から記録がある。国外では、台湾および中国南部から、紅海を含むインド・西太平洋に分布する (松浦, 1984; Randall, 2005; 林・萩原, 2013; Wu and Zhong, 2021; Allen and Erdmann, 2024)。

備考 観察標本は、体が硬い甲板に覆われること、体の横断面が三角形であること、背隆起と腹側隆起が高く、低い背側隆起をもつこと、背隆起の中央に鋭く大きい 1 棘があること、眼上棘が 1 本であること、背鰭条数が 9 であること、臀鰭条数が 9 であること、胸鰭条数が 10 であることなどの特徴が、松浦 (1984)、Randall (2005)、林・萩原 (2013)、Allen and Erdmann (2024) が示したラクダハコフグ *Tetrosomus gibbosus* の形態的特徴と一致したため、本種に同定された。

三木ほか (2017) では、111.8 mm SL の標本を観察し、腹側隆起上の棘の数を 6 とし、前から 1 棘目と 6 棘目は短くて目立たず、その先端は鈍いとしている。また、Randall (2005) では腹側隆起上の棘の数を 5 とし、鰓孔の下にある前から 1 棘目は小さいとしている（観察標本や SL に関する記載はない）。本研究での観察標本は、腹側隆起上の棘の数が 4 であった。観察標本では鰓孔下の腹側隆起にわずかな凹みが確認できるものの、左右ともに棘状とはならず、5 棘目以降の腹側隆起にもわずかな凹みは確認できるものの、棘状にはならない。1 棘目と 6 棘目が短く鈍い棘状まで発達するか、単に凹状を呈するにとどまるかは発育程度や個体によって異なる可能性がある。

観察標本は、徳島県阿南市椿泊町沿岸で漁獲されたものを (山下尚輝氏, 私信)、徳島県立博物館が譲り受けたものである。日本におけるラクダハコフグの標本を伴う記録は、これまで三木ほか (2017) と本村 (2018) のみであり、これら以外の記録では目録的に本種の種名が記載されているに留まる (Jordan et al., 1913; 本間, 1952; 河野ほか, 2014; 大植ほか, 1953; 岡田・伊佐, 1959 など)。三木ほか (2017) では宮崎県産の 1 個体、本村 (2018) では鹿児島県産の 2 個体が報告されている。これらの他にも、全国の自然史系博物館などが所蔵する標本の情報がまとめられているサイエンスミュージアムネット [URL](#) (最終確認日 2025 年 7 月 26 日) にて、採集地情報が記載されていない標本が北海道大学総合博物館水産科学館魚類標本コレクション (HUMZ) と東海大学海洋科学博物館魚類標本コレクション (MSM) の中に含まれていた (HUMZ 103681, HUMZ 126992, HUMZ 110981, MSM-80-016, MSM-80-017, MSM-80-018, MSM-80-065, MSM-81-097, MSM-84-048)。これらの標本情報について問い合わせたところ、HUMZ 103681 は水族館からの寄贈標本で採集地は不明、HUMZ 126992 はインド洋で採集された標本、HUMZ 110981 はハ

Table 1. Counts and measurements of *Tetrosomus gibbosus* (TK-PM-P 27472) from Tokushima Prefecture, Shikoku Island, Japan.

Standard length (mm)	149.8
Counts	
Dorsal fin rays	9
Anal fin rays	9
Pectoral fin rays	10
Branched caudal fin rays	8
Measurements as % of standard length	
Head length	28.7
Body depth	60.7
Depth of caudal peduncle	9.3
Length of caudal peduncle	16.4
Predorsal length	68.6
Preanal length	75.3
Length of dorsal fin base	7.6
Length of longest ray of dorsal fin	15.1
Length of anal fin base	7.6
Length of longest ray of anal fin	12.8
Length of longest ray of pectoral fin	15.1
Snout length	20.6
Eye diameter	10.0

マフグ *Tetrosomus reipublicae* (Whitley, 1930) であり (田城文人氏, 私信), MSM-80-016, MSM-80-017, MSM-80-018, MSM-80-065, MSM-81-097, MSM-84-048 はいずれも熱帯魚商から購入したもので, 採集地は不明とのことであった (富山晋一氏, 私信). なお, 岩坪ほか (2022) では, 鹿児島県南さつま市笠沙より, 本種が2個体採集されたことを記し, そのうちの1個体の標本写真を掲載しているが, 掲載されている標本写真は, 本村 (2018) にて報告された標本と同一個体である. したがって, 確実な日本産の本種の標本は, 三木ほか (2017) の1個体, 本村 (2018) の2個体と本研究にて報告した1個体の計4個体のみである.

謝 辞

椿泊漁業協同組合の山下尚輝氏および職員の皆様と, 徳島県危機管理部安全衛生課の皆様には観察標本の入手や標本の採集日などの情報提供について便宜を図っていただいた. 北海道大学総合博物館の田城文人氏と東海大学海洋学部博物館の富山晋一氏、国立科学博物館の中江雅典氏には標本情報をご教示いただいた. 愛媛県農林水産研究所水産研究センターの清水孝昭氏には文献の収集にご協力いただいた. 匿名の査読者と Ichthy 編集委員の木村祐貴氏には, 原稿に対し, 適切な助言をいただいた. これらの方々にご場をお借りして感謝申し上げる.

引用文献

- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2024. Reef fishes of the East Indies. Second Edition. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. 1466 pp.
- 林 公義・萩原清司. 2013. ハコフグ科, pp. 1723–1726, 2238–2239. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.

- 本間義治. 1952. 新潟県魚類目録 (続き). 魚類学雑誌, 2: 220–229.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 2004. Fishes of the Great Lakes region. Revised edition. The University of Michigan Press, Bloomfield Hills. xvii + 276 pp., 32 pls.
- 岩坪洸樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之. 2022. 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 329 pp.
- Jordan, D. S., S. Tanaka and J. O. Snyder. 1913. A catalogue of the fishes of Japan. Journal of the College of Science, Tokyo Imperial University, 33: 1–497.
- 河野光久・三宅博哉・星野 昇・伊藤欣吾・山中智之・甲本亮太・忠鉢孝明・安津 弥・池田 怜・大慶則之・木下仁徳・児玉晃治・手賀太郎・山崎 淳・森 俊郎・長濱達章・大谷徹也・山田英明・村山達朗・安藤朗彦・甲斐修也・土井啓行・杉山秀樹・飯田新二・船本信一. 2014. 日本海産魚類目録. 山県水産研究センター研究報告, 11: 1–30.
- 松浦啓一. 1984. ハコフグ科, pp. 347–348. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 三木涼平・村瀬敦宣・和田正昭. 2017. 宮崎県門川湾で採集された標本に基づく日本初記録のラクダハコフグ *Tetrosomus gibbosus*. 日本生物地理学会会報, 71: 63–67.
- 本村浩之. 2018. 笠沙の魚類相. 鹿児島大学総合研究博物館 News Letter, 43: 2–7.
- 岡田彌一郎・伊佐次郎. 1959. 魚綱, pp. 33–117. 岡田彌一郎 (編) 沖縄産動物目録. 沖縄生物教育研究会, 那覇.
- 大植登志夫・伊藤猛夫・森川国康・澤田允明・村上節太郎・豊田英義・八木繁一・景浦 勉. 1953. 渭南海岸. 愛媛県土木部都市計画課, 松山. 115 pp.
- Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific. New Caledonia to Tahiti and the Pitcairn Islands. University of Hawaii Press, Honolulu. xii + 707 pp.
- 辻 幸一・平松 亘. 1987. 宇和海産魚類目録 -II. 南予生物, 2: 1–15.
- Wu, H. and J. Zhong. 2021. Key to marine and estuarial fishes of China. China Agricultural Press, Beijing. 1437 pp.